

## 小学館文庫海外ミステリ 2014年の隠し玉！

英国ミステリ界の新女王が描く医療サスペンス！

# ラバーネッカー

ベリンダ・バウアー 著

満園真木 訳

### イギリスメディアも絶賛！

現代クライムフィクション屈指の驚愕のプロット。——サンデー・タイムズ紙  
バウアーの偉大な才能は読者を驚かせる能力にある。——デイリー・テレグラフ紙  
サイコロジカル・スリラーの新境地。——インディペンデント紙  
息もつかせぬ面白さ。——ヴァル・マクダーミド（ミステリ作家。『殺しの儀式』  
『処刑の方程式』）

解剖実習の途中で遺体に不信感を抱いたアスペルガー症候群の医大生・パトリック。  
彼が辿り着いた意外な真実とは？

ラバーネック...[名詞]（ゴムのように首を伸ばして）むやみに見る人、物見高い人。

南ウェールズに母サラと暮らすパトリックは、アスペルガー症候群の18歳の少年。人とのコミュニケーションは苦手だが、いったん興味を抱いたことに対する探究心は凄まじい。10年前に父親が目の前で事故死してから「死」への探求にとりつかれた彼は、大学の医学部で解剖学を学んでいた。ある解剖実習の途中、遺体「19番」から不審物を見つけたパトリックは、何者かに殺されたのではとの疑念を抱き、警察へ通報しようとする。その動きを知った真犯人の手がパトリックにものびる……。

### ベリンダ・バウアー（Belinda Bauer）

英国および南アフリカ共和国育ち。ウェールズ在住。2010年、デビュー作『ブラックランズ』でいきなりゴールド・ダガー賞を受賞。その後、続編『ダークサイド』『ハンティング』を発表。4作目となる『ラバーネッカー』で再びゴールド・ダガー賞にノミネートされ、惜しくも受賞は逃したが、バウアーには図書館員が選ぶCWAダガー・イン・ザ・ライブラリーが贈られた。

**2014年6月6日発売予定** 小学館文庫 464ページ 定価830円 + 税

=====

=====

英国の寒村を舞台に人間の光と闇を描くサイコサスペンス  
小学館文庫のベリンダ・バウアー作シップコット村3部作

**ブラックランズ**

獄中の連続児童殺人犯と12歳の少年の、あまりにも危険な往復書簡。ゴールド・ダ  
ガー賞受賞作。

978-4-09-408550-1

**ダークサイド**

村で起きた連続殺人事件。捜査に参加する若い巡査の葛藤と心の闇を描くクライム  
ノベル。

978-4-09-408625-6

**ハンティング**

謎のメモを残し次々と子供をさらう誘拐犯。少年と巡査がたどり着く真実とは？  
シリーズ完結編。

978-4-09-408785-7